

矢作川流域圏懇談会通信

R5 山部会編 vol. 4



発行日：令和6年3月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第15回山部会まとめの会を開催しました！

2月2日(金)に第15回山部会まとめの会を岡崎市にて開催しました。まとめの会では、4つのテーマに関する令和5年度の活動の振り返り、令和6年度の活動目標について話し合いました。また、岡崎市の森林施策、まちもりの活動、山主目線からの森林循環促進事業の立ち上げについて話題提供と話し合いを行いました。

日時：令和6年2月2日(金) 13:00~17:00

場所：岡崎市農村環境改善センター 会議室

参加者：27名(内オンライン参加6名) ※事務局を含む



◆主な会議内容

1. 令和5年度の活動報告・令和6年度の活動目標

事務局より、2023年11月の全体会議(中間報告会)で報告された令和5年度の活動報告、令和6年度の活動目標について説明されました。説明事項は以下の通りです。

- ・ 令和5年・6年の活動目標、テーマ別の活動目標
- ・ 令和5年度 テーマ別の活動実績
- ・ 今年度の活動実施状況と今後の予定
- ・ 第13回の全体会議に向けての展望

2. 山部会のテーマ別の活動進捗状況の共有

令和5年度の活動進捗について、4つのテーマごとに以下の報告がありました。

■流域圏担い手づくり事例集(洲崎 豊田市矢作川研究所 主任研究員)

- ・ これまでの事例集づくりについて。
- ・ 2023年度事例集では海の問題を取り上げている。海には陸域や河川で生じた様々な問題のしわ寄せがいつてしまっている。今年度中の発行をめざして、寄稿者及び取材対象者との調整を行いながら、取材ととりまとめを進めている。

■山村ミーティング(丹羽 山部会副座長)

- ・ 昨年7月に3県4森林組合が集まって実施した「第1回矢作川流域現場森林技能者合同研修会」の成果をとりまとめた資料を2月中旬に発刊する。タイトルは「森の人をつなぐ」とした。

■森づくりガイドライン(蔵治 山部会座長)

- ・ TBSが「サステナ・フォレスト〜森の国の守り人たち〜」というドキュメンタリーを作成しており、全面的に協力した。撮影は完了しており、3/22~4/4に名古屋市センチュリーシネマでの映画祭で上映される。

■木づかいガイドライン(今村 根羽村森林組合 参事)

- ・ 木育活動を推進している。令和5年度の木育事業として、大阪府万博記念公園ロハスフェスタ、高知県梶原町太朗川公園森林フェスティバル、飯能市講演会、コッコ祭り、矢作川感謝祭、恵那市ラフォーレウッドフェア等で活動を行った。
- ・ 農林水産省では、花粉症対策に関する取組として、花粉の少ない苗木の生産拡大等を進めている。
- ・ 中部エコバイオ合同会社では、生分解性チェーンソーオイル「柞の森(ははそのもり)」を製造販売している。

3. 話題提供

① 岡崎市の森林施策について(岡崎市森林課 高平祐輔氏)

岡崎市の森林施策として、岡崎市市産材調達管理基金、森林保全活動連携協定、地域商社「株式会社もりまち」設立、木づかいの担い手育成等について説明していただきました。

② もりまちの活動について(株式会社もりまち 加藤亮氏)

令和4年に設立された「株式会社もりまち」の設立の経緯、活動理念、もりまち事業戦略、街中での木材利用、企業との連携・協力、森林空間の活用等について説明していただきました。

③ 山主目線から森林循環促進事業の立ち上げ(T イノベーション株式会社 加藤隆人氏)

T イノベーション株式会社の山に対する思いをベースにした山主の意識を変えるための活動、山の課題を解決していくための「+フォレスト構想」に向けた活動等について説明していただきました。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●令和5年度の活動報告・令和6年度の活動目標

- ・森林組合のない市町村について議論されていない。森林組合のない市町村はどうすればよいのか。(清水)
 - ▶ 仲間を募ってグループ活動するようにすれば、流域圏懇談会として取り上げやすいかと思う。(高橋)
 - ▶ 個人の山の活動に関する情報提供は流域圏懇談会のミッションではないことから、対応には限界があると思う。(蔵治)
- ・拡大造林政策の総括ができていない。これは林野庁が総括するしかないと思う。(清水)
 - ▶ 総括に相当する政策を林野庁は示していて、皆伐・再造林の方針を明確に示している。(蔵治)
- ・来年度は、他部会を呼んだ合同部会をやることになると思う。5/31-6/1の山部会WG・FWに他部会も来ていただくことで検討していただきたい。(山本)

●山部会のテーマ別の活動進捗状況の共有

■流域圏担い手づくり事例集

- ・事例集では、持続可能な流域づくりに関わる団体取材し、共有することで活動を広めていくことが目的。(洲崎)
- ・事例集の交流会をやっているが、今年は海がテーマなので、海のエリアで山・海の合同部会の提案が出ている。(洲崎)

■山村ミーティング・森づくりガイドライン

- ・「森の人をつなぐ」は、4つの森林組合が交流しながら、高めあっていく場がこれからできてくればよいという思いを込めて作った。森林組合職員、林業事業体、行政、森林ボランティアに読んでほしい。(丹羽)
- ・4森林組合が一同に会することはまずなかった。森林組合のノウハウ、苦しい事情、良かったことなどを共有しあえたことは画期的だと思う。(丹羽)
- ・若い人にどのように技術を伝えるか。数値化し、科学的に伝えたい。誰もケガさせない職場・現場づくりをどうしていくか苦悩の歴史だ。(丹羽)

■木づかいガイドライン

- ・令和5年9月から12月まで、岡崎市の世界子ども美術館で根羽村の木のおもちゃ展を実施した。(沖)

●話題提供

■岡崎市の森林施策について

- ・公共建築物の木質化を進めたいと考えている。課題は流通している市産材が少ないこと。そのため、岡崎市資産材調達管理基金を設置した。これにより、徐々に市産材が使われ始めた。(高平)
- ・市産材を利用した学生建築コンペに参加された学生はどのような方々か？(三ツ松)
 - ▶ 名古屋市の大学から4校、浜松市の高校からの参加があった。(高平)

■もりまちの活動について

- ・市が出資して株式会社を設立したのは画期的だと思う。発案や設立までの苦労などあればお聞きしたい。(洲崎)
 - ▶ 先進地の事例の見学に行かせていただいて、岡崎市でもできないかと庁内で3年間協議を重ね、今の形となった。出資の割合は岡崎市が多いが、民間の力を使って山を良くしたいというコンセプトで組み立てていった。(加藤亮)
- ・岡崎市資産材調達管理基金の運営を誰がやっているのかを考えていたが、「もりまち」の話を聞いて、「もりまち」がその一つとなっているのがわかった。この先、どうしていくのかなど考えを教えてください。(丹羽)
 - ▶ 「もりまち」が担う業務は、その時々で変わっていくと思っている。現在は、岡崎市の木材を流通させるというのを担っている。これが解決すれば、次は別の足りないところを「もりまち」が担っていく。(加藤亮)
- ・「もりまち」では製材品を作る時、伐り出す山をどのように決めているのか？(今村)
 - ▶ 岡崎森林組合に相談して決めている。伐るのも岡崎森林組合にやっていただいている。また、岡崎市の山間部には、個人で木材を搬出されている方がおられるので、そういう方とも連携しながらやっている。(加藤亮)
- ・森は木材生産だけのためにあるのではない。生物多様性、水源涵養、防災にも役立っている。(蔵治)
 - ▶ 一般の方に広く山の良さを伝えたいというのが今のステージ。次のステージにも早く行きたいと思っている。(加藤亮)
- ・生物多様性が企業で注目されている。全国の企業は、環境省の自然共生サイトへの登録を進めている。(小串)
 - ▶ 自然共生サイトには注目している。三菱と自然共生サイトに指定されている森を視察に行ってきた。(加藤亮)
 - ▶ 企業は、グリーンウォッシュも厳しく問われる。イメージだけでやるような社会を変えていかないといけない。(蔵治)

■山主目線から森林循環促進事業の立ち上げ

- ・活動していることをPRしていくため、Youtubeチャンネルを立ち上げた。山主で集まって山主の意見を聞くため、講演会を実施した。90名ほど参加していただいた。(加藤隆)
- ・一次産業は兼業することが大事と思う。+フォレストでは、「林業+〇〇事業」というのを考えた。(加藤隆)
- ・+フォレスト構想は、山主さんが本構想に山を預け、山主さんの山をいろんな方と組んで、山の資源に関わるいろんな事業を展開していく計画である。(加藤隆)
- ・いろんな視点でアイデアを出す。価値があるということを感じさせて市場をつくっていく。「山=ENERGY」というのを大事にして活動していきたい。(加藤隆)
 - ▶ 楽しいことが大事。みんなでアイデアを出して、コーディネートして、いろいろやってみる。応援する。(今村)

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、建設専門官 宮本、技官 松田
TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省豊橋河川事務所までお送りください。

